

## 自由と責任・社会性と多様性～価値観を洗練する～

1月30日（金）6限目に冬季期間のアウトターなどについて、クラスごとに話し合いを行いました。その中で、「パーカーやカーディガンはアウトターとして認められない」という文言について、生徒会の生徒たち自身も正確に説明することが難しく、明確な基準を示すことに苦労している様子が見られました。\*ちなみにここでのパーカーはフードがあるものすべてではない。

学校は「フォーマルな場所であるため、それに準じた服装を」という考え方は共有できているものの、「カジュアルとは何か」「どこからが不適切なのか」という線引きは容易ではありませんでした。実際の話し合いでは、

- 線が引けないなら、制服のように学校指定にしてはどうか
- 色や生地を細かく指定してはどうか
- いっそ自由に振り切ってはどうか
- 学年ごとに、3年生は受験の面接会場に着ていけるか。2年生は職場体験にふさわしいか。

1年生は企業訪問で失礼にならないか。 という視点で判断してはどうか

など、多様な意見が出されました。真剣に悩み、考え抜いたからこそ簡単にはまとまらず、今回は先送りという結論になりました。

しかし、ここで一度立ち止まって考えてみてほしいことがあります。それは、「細かなルールで縛ること」や「指定によって明確な線を引くこと」だけが本当に望ましいのか、という点です。

確かに、はっきりした規定があれば、全員がそこに収まります。その一方で、「なぜその服装が求められるのか」「場にふさわしいとはどういうことか」といった、社会や組織の秩序、マナーについて自ら考える機会を失い、受け身で非主体的な状態に陥ってしまう危険もあります。

もし何も考えないまま成長し、社会に出たとき、会社やさまざまな場面にはドレスコードや暗黙の了解が数多く存在します。そのときに、「決まりがないと判断できない」人になってしまっただけでは困ります。だからこそ、自分で状況を見て、「この場ではどう振る舞うべきか」「この服装はふさわしいか」を考え、判断する力が必要なのです。

近年、「多様性」という言葉が広く使われるようになりましたが、自由と自分勝手に混同されてしまう場面も少なくありません。

私たちは学校という場で、教科の学習だけでなく、社会の中で生きていくための多くのことを学んでいます。「社会性」を獲得することも、学校生活において大切な学びの一つではないでしょうか。

アウトターのルールが今後どのように収束していくのか、とても楽しみです。

そして何よりも、そこに至るまでの話し合いのプロセスそのものが、自分の価値観を見つめ直し、考えを深める貴重な経験になると信じています。



## 生まれたときは、みんな“すっぽんぽん♡”

先日ある男子生徒に「指導部通信いつも読んでます」て、言われてさらにモチベーションが上がりました。誰かの何気ない一言で元気になれるってほんとだなと感じた瞬間でした。そんな皆さんのために、刺激的なタイトルを用意しました♡（笑）



皆さんは、生まれた瞬間の自分がどんな姿をしていたのか覚えていますか？覚えていたら奇跡ですね。でも、写真で見たことがあるかも知れないし、想像することも難しくないかも知れません。そうです！タイトルの通り…すっぽんぽんだったのです。服も下着も…何も身につけずに、丸裸で生まれてきたのです。そして身につけていなかったのは、服や下着だけではありません。何の知識も技術も身につけずに、生まれてきたのです。まさに“すっぽんぽん”。生まれてきた瞬間に、話せる赤ちゃんは世の中には一人もいませんし（釈迦は「天上天下唯我独尊」と話したそうですが、それは超人的人物）、生まれた瞬間に計算ができた赤ちゃんもいませんし、歴史の知識を身につけていた赤ちゃんもいません。そして、生まれたばかりの赤ちゃんを見て「この子は、将来400点は取るんだろな」とか、「テストで100点ばかり取るんだろな」、逆に「この子は、将来ダメな点数ばかり取るな…」なんて思う人もいないでしょう。生まれたばかりの赤ちゃんを見ると「この子は、どんな未来を生きていくんだろう」という希望に満ちたワクワク感を感じるばかりです。

福沢諭吉の「学問のススメ」を知っていますか？一代前の一万円札のあの人が書いた、当時の大ベストセラーです。

## 天は人の上に人を造らず、人の下に人を造らず

という、有名な言葉から始まります。人は生まれながら平等であると言っているのです。まさに、生まれた瞬間、人は間違いなく“すっぽんぽん”で身分の差、優劣の差、貴賤の差はないと言っています。そして「でも、現実には大きな差がある」ことを述べ、賢い人もいるし、愚かな人もいるのは「なぜだろう？」と問いかけているのです。皆さんは、なぜだと思いませんか？もうわかりますよね？「学んだか、学ばなかったかによるものだ」と言うのです。（この後、何を学ぶべきかについて言及するのですが、それは置いておいて…）



生まれたばかりの時は、全ての人々が知識も技術も何も身につけず“すっぽんぽん”状態。そこから、ありとあらゆる経験をして、そして学んでいろんな知識や技術を身につけてきたのです。もしかすると今、他の人との「学力の差」を感じている人がいるかも知れません。そのことで苦しんでいる人がいるかも知れませんし、あきらめかけている人がいるかも知れません。でも、安心して下さい(∩\_∩)。14年ほど前に生まれたとき、全員が“すっぽんぽん”だったのです。いや生まれてすぐに勉強を始めた人なんていないでしょう。おそらく、皆さんが本格的に勉強を始めたのは小学校に入ってからです。だから…6, 7年ほど前まで、学力に大きな差は無かったと思うのです。6, 7年ほど前から本格的に勉強を始め、この6, 7年間という時間を「投資に使ったのか、消費に使ったのか、浪費に使ったのか」の差が、今皆さんが感じている「差」につながっているのです。と言うことは…たった6, 7年間をついた差くらい、今からでもどうにでもなりますよ！今まで時間を「浪費」に使ってしまった人は、今からでも「投資」に変えれば、この差は絶対に埋められる！

世間で成功をおさめられなかった人は「私には、才能が無かった」とよく言います。逆に成功をおさめた人は、「あきらめず情熱を注いできてよかった」と言います。「私には、才能があった」とは言わないんですよ…。なぜですかね？？